

J.LEAGUE™ NEWS

© J.LEAGUE PHOTOS



浦和レッズ vs 川崎フロンターレ

© J.LEAGUE PHOTOS



2013 Jリーグ
ヤマザキナビスコカップ

準決勝の組み合わせは

横浜F・マリノス vs 柏レイソル



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

準決勝進出を果たした4チーム。写真は準々決勝のそれぞれのホームゲームより

2013 Jリーグヤマザキナビスコカップは4強が決定

浦和レッズ、柏レイソル、川崎フロンターレ、横浜F・マリノスの関東4クラブが準決勝進出を果たす

2013 Jリーグヤマザキナビスコカップの準々決勝がホーム&アウェイで6月23、30日に開催され、浦和レッズ、柏レイソル、川崎フロンターレ、横浜F・マリノスの4クラブが準決勝進出を決めた。浦和はセレッソ大阪、柏はサンフレッチェ広島、川崎Fはベガルタ仙台、横浜FMは鹿島アントラーズとの戦いをそれぞれ制した。関東地方のクラブが4強の座を占めたのは7年ぶりで2回目。やはりホーム&アウェイによる準決勝は、浦和 vs 川崎F、横浜FM vs 柏の組み合わせで、第1戦が9月7日(土)、第2戦が10月12日(土)に行われる。また、決勝は11月2日(土)に国立競技場で開催される。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS



©J.LEAGUE PHOTOS



柏の工藤(右)と広島の水本との競り合い。柏はアウェイゴール数で勝り、広島を振り切った

©J.LEAGUE PHOTOS



初優勝を目指す川崎Fはアウェイの第2戦、中村の2得点などで仙台に連勝した



第2戦で得点した横浜FMのマルキーニョス(左)を、鹿島の青木がチェック



C大阪のゴールに迫る浦和の原口。浦和は第1戦でものにした2点のリードを守った

準々決勝の4カードのうち、最も際どい勝負となったのが、柏レイソルとサンフレッチェ広島の対決だった。第1戦はアウェイの柏が2-1と競り勝ったが、昨シーズンのJリーグチャンピオンである広島も第2戦で意地を見せ、エースストライカーのFW佐藤寿人の得点で1-0と雪辱。しかし、柏も集中力を切らすことなく、失点をこの1点にとどめた。対戦成績は1勝1敗、2試合合計スコアも2-2と並んだものの、アウェイで記録した得点数で勝る柏が、昨年に続いて準決勝へ駒を進めた。

2連勝で準決勝進出を果たしたのは、川崎フロンターレと横浜F・マリノス。川崎Fはホームの第1戦でベガルタ仙台に2-1と先勝。アウェイの第2戦では先制を許したものの、SAMURAI BLUE(日本代表)のFIFAコンフェデレーションズカップ出場からチームに戻ったMF中村憲剛の2得点などで逆転に成功し、3-2と勝利。3年ぶりの準決勝へ勝ち進んだ。

横浜FMはアウェイでMF中村俊輔がFKを直接決めるなど、2-0と鹿島アントラーズを下した後、ホームでもMF齋藤学、FWマルキーニョス、DF奈良輪雄太の得点で3-1と快勝。4年ぶりの4強入りを果たした。鹿島は大会3連覇、同最多となる6回目の優勝を目指したが、準々決勝で敗退した。

浦和はアウェイの第1戦で、FW興梠慎三が2得点をマークする活躍で、セレッソ大阪を2-0と破った。ホームの第2戦では試合開始早々にC大阪のMF南野拓実に先制されたものの、MF梅崎司がドリブルで持ち込んで1点を返し、1-1の引き分け。対戦成績を1勝

1分として、2年ぶりに準決勝へ進出した。

準決勝に進出した4チームのうち、浦和(2003年)、柏(1999年)、横浜FM(2001年)は過去に1回ずつ、ヤマザキナビスコカップに優勝歴があり、川崎Fは2000、07、09年の準優勝が最高の成績となっている。

■2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント

※表の左側のチームをホームチーム扱いとする(表の右側のチーム：第1戦ホームチーム/左側のチーム：第2戦ホームチーム)



各会場でおなじみのナビスコキッズイレブンを開催



来場者にヤマザキナビスコのお菓子をプレゼント

Jクラブが世界にチャレンジ



スルガ銀行
チャンピオンシップ 2013 IBARAKI
Jリーグヤマザキナビスコカップ / コパ・スタメリカーナ 王者決定戦

鹿島アントラーズが2年連続出場 サンパウロFC(ブラジル)と対戦

「スルガ銀行チャンピオンシップ 2013 IBARAKI Jリーグヤマザキナビスコカップ / コパ・スタメリカーナ 王者決定戦」が、8月7日(水)に県立カシマサッカースタジアムで開催される。前年に行われたJリーグヤマザキナビスコカップ、南米の代表的なカップ戦の一つであるコパ・ブリヂストン・スタメリカーナの優勝チームの対戦で、今回は鹿島アントラーズとサンパウロFC(ブラジル)が出場する。

来日するサンパウロFCは、日本で開催されたトヨタ ヨーロッパ / サウスアメリカ カップの

2連覇(1992、93年)、2005年のFIFAクラブワールドチャンピオンシップ(現FIFAクラブワールドカップ)の優勝などでも知られている。鹿島のトニーニョ セレーゾ監督も、選手時代に活躍した。

大会は08年に始まり、最初の2回は南米勢が勝ったものの、その後はFC東京、ジュビロ磐田、そして昨年の鹿島と、日本勢がいずれもPK戦の末に連続して優勝を飾った。ブラジルきっての名門クラブを相手に、鹿島の2連覇が成るかが注目される。

過去の大会結果

第1回	2008年7月30日	大阪長居スタジアム
	ガンバ大阪	0-1 アルセナルFC(アルゼンチン)
第2回	2009年8月5日	大分・九州石油ドーム
	大分トリニータ	1-2 SCインテルナシオナル(ブラジル)
第3回	2010年8月4日	国立競技場
	FC東京	2-2 リガ・デ・キト(エクアドル) (PK4-3)
第4回	2011年8月3日	エコパスタジアム
	ジュビロ磐田	2-2 インデペンディエンテ(アルゼンチン) (PK4-2)
第5回	2012年8月1日	県立カシマサッカースタジアム
	鹿島アントラーズ	2-2 ウニベルシダ・デ・チリ(チリ) (PK7-6)

大会概要	
大会名称	スルガ銀行チャンピオンシップ 2013 IBARAKI Jリーグヤマザキナビスコカップ / コパ・スタメリカーナ 王者決定戦
主催	公益財団法人 日本サッカー協会(JFA) / 南米サッカー連盟(CONMEBOL) 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)
主管	公益財団法人 茨城県サッカー協会
プレゼンティングスポンサー	スルガ銀行株式会社
特別協賛	ヤマザキナビスコ株式会社
協賛	株式会社ナイキジャパン
対戦	鹿島アントラーズ(日本 / 2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ 優勝チーム) vs サンパウロFC(ブラジル / コパ・ブリヂストン・スタメリカーナ 2012 優勝チーム)
開催日時	2013年8月7日(水) 19:00キックオフ(予定)
会場	茨城 / 県立カシマサッカースタジアム
テレビ放送	BSフジにて8月7日(水)23:30 ~ 録画放送 / フジテレビONEにて生中継



南米のタイトルホルダーと対戦する貴重な大会。鹿島の2連覇、日本勢の4連覇は成るか



柏レイソルの準々決勝の対戦相手は アルシャバブ(サウジアラビア)



ラウンド16で全北現代モータース(韓国)を下し、準々決勝に進出した柏。写真は渡部

アジアサッカー連盟(AFC)は6月20日、クアラルンプール(マレーシア)のAFCハウスでAFCチャンピオンズリーグ2013ノックアウトステージの組み合わせ抽選会を行った。クラブ史上初めてとなる準々決勝へ進出した柏レイソルは、昨シーズンのサウジアラビアリーグチャンピオン、アルシャバブと対戦することが決まった。ホーム&アウェイによる準々決勝は、第1戦が柏のホームゲームで8月21日(水)、第2戦がアウェイで9月18日(水)に行われる。

柏のネルシーニョ監督は、対戦相手の決定を受けて「われわれはグループステージで一番良い成績を挙げたチーム。これまで同様の戦い方と姿勢を続け、目の前の(ホーム&アウェイ2試合の計)180分に最善を尽くすことが大事。まずは準決勝へ進むために照準を合わせていきたい」とのコメントを寄せた。

この大会の優勝チームは、ことし12月11日(水)~21日(土)にモロッコで開催されるFIFAクラブワールドカップに、AFCを代表して出場する。

■ AFCチャンピオンズリーグ 2013 ノックアウトステージ

※表の左側のチーム：第1戦ホームチーム / 右側のチーム：第2戦ホームチーム



育成年代が世界へ「海外キャンプ」 「Jリーグアカデミー グローバルチャレンジ」



Jリーグは7～8月にU-14 Jリーグ選抜をスウェーデン、U-13 Jリーグ選抜をタイにそれぞれ派遣し、海外キャンプを実施する。U-14は6回目、U-13は5回目の同キャンプ。U-14が7月11～22日に行うスウェーデンキャンプでは、イエテボリで開催のGothia Cup 2013 (U-15)に出場。同キャンプでのGothia Cup参加は初めてのこととなる。8月3日(土)～9日(金)に行うU-13はタイのバンコク、チョンブリで開催される2013 SUPERJUNIORS FOOTBALL CHAMPIONSHIPに出場する。

一方、U-14が出場するGothia Cupには7月14～20日の期間、2012 Jリーグアウォーズ 最優秀育成クラブ賞受賞のコンサドーレ札幌



札幌(写真)、U-14とともに決勝へ進出するも、惜しくも準優勝(詳細は次号でレポート) © ベースボールマガジン社

(U-16)が、Jリーグアカデミーの代表チームとして参加した。「Jリーグアカデミー グローバルチャレンジ」の名称のもと、世界で活躍する選手の育成および強化を促進することが目的。昨年は東京ヴェルディユース(U-16)が同大会に出場し、今回が2回目となった。

実行委員選任について

Jリーグは6月27日に開催した理事会で、柏レイソルの実行委員を御手洗尚樹氏から萩原 靖(はぎわら やすし)氏へ、愛媛FCの実行委員を亀井文雄氏から佐伯真道(さきま まさみち)氏へ変更することを承認した。

実行委員			敬称略
クラブ名	変更前	変更後	
柏レイソル	御手洗 尚樹 株式会社 日立柏レイソル 代表取締役社長	萩原 靖 株式会社 日立柏レイソル 代表取締役社長	
愛媛FC	亀井 文雄 株式会社 愛媛FC 代表取締役社長	佐伯 真道 株式会社 愛媛FC 代表取締役副社長	

参与選任の件

Jリーグは6月27日に開催した理事会で、2013年3月にジュビロ磐田の実行委員を退任した吉野博行氏を、参与に選任した。

参 与		敬称略
氏名	実行委員在任期間	
吉野 博行	2009年1月～13年3月(在任期間4年2カ月)	

adidas CUP 2013 日本クラブユースサッカー選手権 (U-18/U-15)大会を後援

Jリーグは6月27日に開催した理事会で、公益財団法人 日本サッカー協会および一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟が主催する「adidas CUP 2013日本クラブユースサッカー選手権(U-18/U-15)大会」を後援することを決定した。同大会は、日本の将来を担うユース年代選手のサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的とし、連盟第2種加盟登録チームの全てが参加できる。U-18は7月25日～8月3日(土)に群馬県、神奈川県で、U-15は8月15日(木)～24日(土)に北海道で開催。

「2013 Jユースカップ」を開催

Jリーグは10月12日(土)より、ユース年代の選手育成と活躍の舞台となる「2013 Jユースカップ 第21回 Jリーグユース選手権大会」を開催する。Jリーグの各クラブは発足当時から、公益財団法人 日本サッカー協会、一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟、地域のサッカークラブ、部活動などと連携しながら、地域の育成普及に力を注いでいる。21回目の開催を迎える本大会は、J1・J2全40クラブとFC町田ゼルビアが参加。過去に多くの有望な選手を輩出し、年々その価値を高めている本大会を通じて、参加選手たちが大きく成長する姿が注目される。

大会は参加41チームを10グループに分けた予選リーグを行い、各グループの1位と2位の計20チームに、日本クラブユースサッカー連盟地域代表の4チームを加えた計24チームで決勝トーナメントを争う。決勝は12月23日(月・祝)に大阪長居スタジアムで開催予定。

予選リーグ組み合わせ

Aグループ) 札幌/大宮/千葉/栃木	Fグループ) C大阪/清水/川崎F/甲府
Bグループ) 柏/F東京/仙台/水戸	Gグループ) 京都/横浜FM/湘南/松本
Cグループ) 浦和/鹿島/山形/群馬	Hグループ) 広島/鳥栖/鳥取/徳島
Dグループ) 東京V/磐田/新潟/岐阜/町田	Iグループ) 神戸/大分/長崎/熊本
Eグループ) 名古屋/G大阪/横浜FC/富山	Jグループ) 愛媛/福岡/北九州/岡山

「日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 デベロップカップ2013」「2013東日本インターシティカップ(U-15)」「堺市長杯 2013中日本インターシティカップ(U-15)」「第9回 JCYインターシティカップサッカー(U-15)西日本大会」を後援

Jリーグは6月27日に開催した理事会で、一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟が主催する「日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 デベロップカップ2013」(8月18日(日)～24日(土)、北海道)、「2013東日本インターシティカップ(U-15)」(8月6日(火)～8日(木)、茨城県)、「堺市長杯 2013中日本インターシティカップ(U-15)」(8月15日(木)～18日(日)、大阪府)および「第9回JCYインターシティカップサッカー(U-15)西日本大会」(7月30日～8月1日(木)に予定、徳島県)を後援することを決定した。

これらの大会は、日本クラブユースサッカー選手権大会に残念ながら出場できなかったチームが参加できる競技会として位置付けられ、日本の将来を担うユース年代のサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的として開催されている。

メニコンカップ 2013 日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)を後援

Jリーグは6月27日に開催した理事会で、一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟などが主催する「メニコンカップ 2013 日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)」を後援することを決定した。同大会は、次世代のサッカー界を担うユース年代の選手たちの、サッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的とし、ことしは9月8日(日)に名古屋市瑞穂公園 ラグビー場で開催する。

2013 コカ・コーラウエスト サンフレッチェカップ (U-15/U-12)を後援

Jリーグは6月27日に開催した理事会で「2013コカ・コーラウエスト サンフレッチェカップ(U-15/U-12)」(主催: 株式会社サンフレッチェ広島)を後援することを決定した。同大会は、U-15およびU-12年代の理想的な試合形式を用いたゲーム環境を整え、個を伸ばしていくこと、および指導者の交流、情報共有を行うとともに、豊かな人間性を育成することを目的とする。U-15は7月24～26日、U-12は同30～31日に開催。

第14回豊田国際ユース(U-16)サッカー大会を後援

Jリーグは6月27日に開催した理事会で「第14回豊田国際ユース(U-16)サッカー大会」を後援することを決定した。同大会は、次世代のサッカー界を担う16歳以下(U-16)の選手たちが、サッカーを通じて国際交流を行うことと選手育成を目的に開催。U-16日本代表、U-16名古屋グランパス、U-16メキシコ代表などが参加し、8月8日(木)～11日(日)に豊田スタジアムなどで行われる。

図書館海援隊フォーラム2013を後援

Jリーグは6月27日に開催した理事会で「図書館海援隊フォーラム2013」(主催:図書館海援隊フォーラム2013実行委員会)を後援することを決定した。本フォーラムは、「Jリーグ百年構想」を掲げ、ホームタウンにおいて地域社会と一体となったクラブづくりに取り組んでいるJクラブと、読書活動の啓発・推進とともに地域社会の問題解決を支援し、活性化に取り組む公共図書館の連携によるさまざまな効果、および地域文化の醸成への貢献の可能性を探ることを目的に開催する。今年度は「全国図書館大会」(第99回大会/福岡県開催)で、九州Jリーグホームタウン連携会議も共催して11月23日(土・祝)に福岡県立図書館で実施する。

かんきょうみらいカップ2013を後援

Jリーグは6月27日に開催した理事会で、環境未来カップ実行委員会(札幌市、公益財団法人北海道サッカー協会、北海道新聞社)が主催する「かんきょうみらいカップ2013」を後援することを決定した。8月7日(水)に札幌サッカーアミューズメントパークで行われる同大会は、スポーツ・レクリエーションなどを通じて楽しみながら子どもたちに環境の大切さを知ってもらい、環境に関する行動喚起を醸成することを目的とする。

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に協力

Jリーグは6月27日に開催した理事会で、昨年に引き続き、警視庁が実施する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に協力することを決定。Jリーグの試合会場で、電光掲示板などによる告知活動などを行う。

香港で2013 J1リーグ戦のケーブルテレビにおける生放送開始

香港のケーブルテレビ局 HKCTV (Hong Kong Cable TV) が運営する i-Cable (ケーブルテレビ) で、2013年7月より J1 リーグ戦の生放送(1節あたり3試合)を開始した。香港では昨年まで、PCCW が運営する NOW (IPTV) で1節あたり2試合を放送していたが、より多くの試合を香港の人々に楽しんでもらうため、今シーズンより放送局を変更することとなった。

Jリーグ20周年記念企画「Jクロニクルベスト」表彰

Jリーグ20周年を記念して、過去20年間の「ベストゴール」「ベストイレブン」「ベストマッチ」をサポーター投票で決定した「Jクロニクルベスト」で、横浜F・マリノスに関係したベストイレブンの表彰が6月30日、日産スタジアムでの2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ準々決勝第2戦、鹿島アントラーズ戦のキックオフ前に行われた。MF中村俊輔、DF中澤佑二の両選手、さらに2011年8月に亡くなったDFの故松田直樹さんの姉である真紀さんが表彰を受けた。



ベストイレブンの表彰。左から中澤、松田真紀さん、Jリーグの中野幸夫 専務理事、中村

“お台場合衆国2013”にJリーグヤマザキナビスコカップブース初出展

Jリーグは7月13日～9月1日(日)にお台場のフジテレビ本社周辺で開催する「楽しくなければお台場じゃない! 冒険しなけりゃ夏じゃない! お台場合衆国2013」(主催:フジテレビジョン)のすぽると! チャレンジアリーナ(合衆国サンサンアイランド内)に、Jリーグヤマザキナビスコカップのブースを出展している。本ブースは、フジテレビのスポーツニュース番組「すぽると!」と連動し、アトラクション体験コーナーやJリーグヤマザキナビスコカップを紹介する展示を実施。開催期間中、ブース来場者全員にヤマザキナビスコ社製品がプレゼントされる。夏休みに親子で楽しめるブースとなっており、暑い夏ならではのイベントが盛りだくさんの内容となっている。なお、入場にはお台場合衆国1DAYパスポート(一般1,700円/小中学生1,300円)が必要となる。

亀岡サッカーデー～京都サンガ・フェスタ～(仮称)を後援

Jリーグは7月16日に開催した理事会で、9月21日(土)に京都府の亀岡運動公園競技場などで行われる「亀岡サッカーデー～京都サンガ・フェスタ～(仮称)」(主催:亀岡市、亀岡市教育委員会、株式会社京都パープルサンガなど)を後援することを決定した。本イベントは、新たなサッカーファンの掘り起こし、およびJリーグと京都サンガF.C.の認知度の向上を目指すと同時に、グラウンドゴルフなど他スポーツの大会も開催し、Jリーグの理念でもある「豊かなスポーツ文化の振興」への寄与を目的とするもので、新スタジアム建設地に決まった亀岡市で開催する。

マルハンカップ 第5回パワーチェアーフットボールブロック選抜大会を後援

Jリーグは7月16日に開催した理事会で、8月17日(土)、18日(日)に神奈川県障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール メインアリーナで行われる「マルハンカップ 第5回パワーチェアーフットボールブロック選抜大会」(主催:日本電動車椅子サッカー協会)を後援することを決定した。本大会は、日本における電動車椅子サッカーの普及振興、およびワールドカップに向けた技術向上、選手の育成強化を図ることを目的に開催される。

第17回電動車椅子サッカー関東大会を後援

Jリーグは7月16日に開催した理事会で、9月1日(日)に茨城県の堀原運動公園 武道館で行われる「第17回電動車椅子サッカー関東大会」(主催:関東ブロック電動車椅子サッカー協会)を後援することを決定した。本大会は、電動車椅子サッカーの競技普及を進めるとともに、参加チームの技術向上と交流を図ることを目的に開催される。

「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」5、6月の受賞選手決定

各月のリーグ戦(J1、J2)において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」の5、6月度の受賞選手が決定した。J1は5月がセレッソ大阪のMF柿谷曜一朗で、6月はリーグ戦の中断期間で試合開催がなく、該当者はなし。J2は5月が京都サンガF.C.のGKオ スンフン、6月がモンテディオ山形のFW林 陵平。受賞したJ1選手には賞金として30万円、J2選手には20万円が授与される。



5月のJ1月間MVPに選ばれた柿谷(左から2人目)

2013シーズンから新設した「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」は、サッカーの魅力を広く伝えていくことで、より多くの人々にサッカーならではの感動や最高の喜びを共有する機会を提供し、Jリーグの楽しみ方を伝えることを目的に創設。サッカー専門メディアとJリーグからなる選考委員会によって選考される。

2012年度Jクラブ経営情報開示

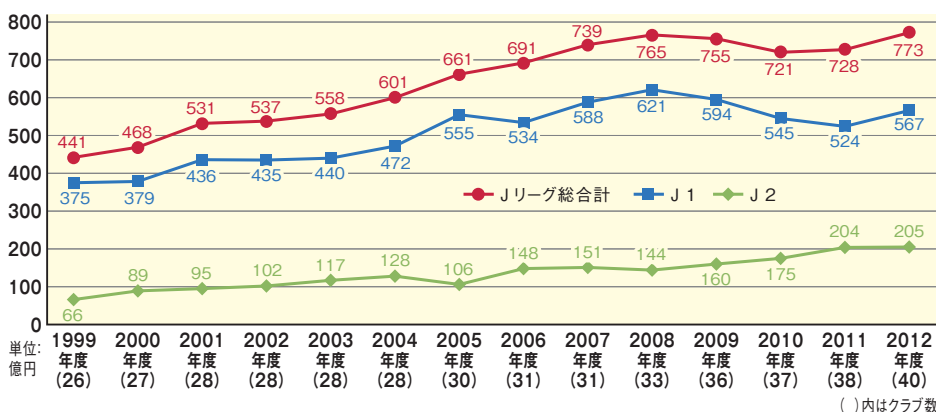
JリーグはJクラブ経営の透明性向上のため、2005会計年度分より、クラブ別の個別情報を発表している。06会計年度からは、全クラブの全ての項目が開示されるようになった。

1. 2012シーズンの主なトピックス

- J1 18クラブ、J2 22クラブの40クラブ構成
FC町田ゼルビア、松本山雅FCがJ2に入会
- J2-JFL間の入れ替えを初めて実施
FC町田ゼルビアがJFLに降格、V・ファレン長崎がJ2に昇格
- クラブライセンス制度がスタート
42クラブがクラブライセンスを申請、41クラブにクラブライセンスを交付
(J1ライセンス:33クラブ J2ライセンス:8クラブ)
- 40クラブで総勢1,700人以上のクラブスタッフが働いている。
※2012年6月末、クラブライセンス申請書類をもとに集計。役員・非常勤役員・社員・出向社員・契約社員の合計
※2013年2月1日現在の選手数は1,142人

2. 全クラブの営業収益(売上高)の合計

- 40クラブの収益の総合計は約773億円。過去最高 震災の影響があった2011年度(約728億円)から45億円の増収。大幅に伸びた。
- J1の平均収益は31.5億円、J2は9.3億円



3. 決算数値(40クラブ合計)の概要

- 40クラブ合計の「当期純利益(損失)」が黒字化。2007年度以来
・40クラブの当期純利益(当期純損失)を全て合計すると、4億円の「黒字」
・広告料収入(前年比+17.8億円)、入場料収入(前年比+11.2億円)の伸びが収益の改善に貢献

		J1+J2合計			
科 目		2011年度	2012年度	増減額	増減比
損益総括	営業収益	72,847	77,333	4,486	106.2%
	広告料収入	33,314	35,096	1,782	105.3%
	入場料収入	14,203	15,324	1,121	107.9%
	Jリーグ配分金	6,086	6,169	83	101.4%
	アカデミー関連収入	3,713	4,136	423	111.4%
	その他収入	15,531	16,611	1,080	107.0%
	営業費用	72,921	76,639	3,718	105.1%
	チーム人件費	32,862	33,309	447	101.4%
	試合関連経費	6,296	6,650	354	105.6%
	トップチーム運営経費	7,167	8,002	835	111.7%
	アカデミー運営経費	2,550	2,864	314	112.3%
	女子チーム運営経費	169	228	59	134.9%
	販売費および一般管理費	23,876	25,585	1,709	107.2%
	営業利益	▲ 73	692	765	-948.6%
	営業外収益	721	693	▲ 28	96.1%
	営業外費用	380	368	▲ 12	96.8%
	経常利益	269	1,015	746	377.3%
	特別利益	326	250	▲ 76	76.6%
	特別損失	697	411	▲ 286	59.0%
税引前当期利益		▲ 102	855	957	—
法人税および住民税		438	450	12	102.7%
当期純利益(損失)		▲ 541	403	944	—

※数値は、各クラブの百万円単位の金額を単純合計したものであり、端数処理の関係で、合計数値が一部、一致しないところがある

4. 赤字クラブ・債務超過クラブ

- 赤字クラブ、債務超過クラブ、ともに減少
『2014年度末に「3期連続赤字」または「債務超過」でライセンス不交付』ということが意識され、財務指標は改善に向かっている。

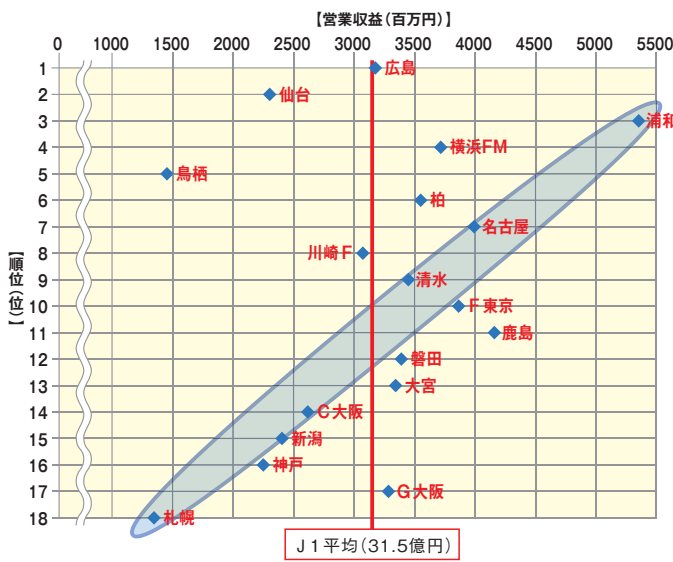
J1・J2合計	2011年度	2012年度
[クラブ数]	[38]	[40]
赤字クラブ数	18	12
3期連続赤字クラブ数	4	5
債務超過クラブ数	11	9

J1	2011年度	2012年度	クラブ名(2012年度)
[クラブ数]	[18]	[18]	
赤字クラブ数	8	5	札幌・鹿島・横浜FM・名古屋・神戸
3期連続赤字クラブ数	2	3	横浜FM・名古屋・神戸
債務超過クラブ数	3	3	札幌・横浜FM・神戸

J2	2011年度	2012年度	クラブ名(2012年度)
[クラブ数]	[20]	[22]	
赤字クラブ数	10	7	栃木・群馬・富山・岐阜・鳥取・福岡・熊本
3期連続赤字クラブ数	2	2	群馬・富山
債務超過クラブ数	8	6	栃木・群馬・岐阜・北九州・大分・熊本

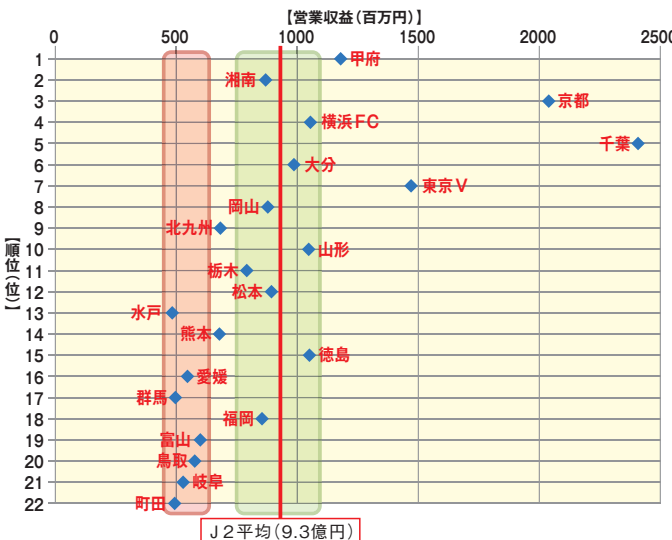
5. 収益と順位との関係(J1)

J1では「収益が大きいくほど順位は上になる」とまでは言い切れない。
収益が大きくなると、上位に進出できるチャンスがある。



6. 収益と順位との関係(J2)

- J2は「5~6億円前後」-「10億円前後」-「それ以上」にグループ分けされる。
・増収による底上げは、J2のさらなる活性化にとって重要なテーマ。
・J1昇格経験がなくとも着実に成長を遂げるクラブもある(岡山・松本など)。



2012年度Jクラブ決算一覧

(単位: 百万円)

クラブ名		J1																		J1 総合計	J1 平均
		札幌	仙台	鹿島	浦和	大宮	柏	F東京	川崎F	横浜FM	新潟	清水	磐田	名古屋	G大阪	C大阪	神戸	広島	鳥栖		
決算月	2012年 12月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 3月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2012年 12月期	2013年 1月期	2013年 3月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2012年 12月期	2013年 1月期	2013年 1月期		
1. 損益総括																					
損益総括	営業収益	1,347	2,303	4,160	5,353	3,344	3,551	3,865	3,073	3,717	2,405	3,449	3,391	3,993	3,285	2,618	2,250	3,176	1,454	56,734	3,152
	広告料収入	475	770	1,935	2,121	2,172	1,989	1,385	1,373	1,364	941	1,223	1,674	2,145	1,840	1,120	742	1,406	493	25,168	1,398
	入場料収入	397	764	720	1,988	329	576	817	558	783	661	623	403	799	529	495	454	551	495	11,942	663
	Jリーグ配分金	209	248	247	267	208	234	227	214	220	220	237	233	226	232	228	202	239	202	4,093	227
	アカデミー関連収入	44	86	270	18	143	74	419	158	458	137	315	149	275	123	0	225	100	45	3,039	169
	その他収入	222	435	988	959	492	678	1,017	770	892	446	1,051	932	548	561	775	627	880	219	12,492	694
	営業費用	1,468	2,271	4,238	5,202	3,348	3,527	3,622	3,005	4,217	2,450	3,324	3,174	4,287	3,352	2,546	2,364	2,949	1,362	56,706	3,150
	チーム人件費	495	1,079	1,888	1,910	1,787	2,047	1,574	1,428	1,601	940	1,281	1,437	2,009	1,707	969	1,157	1,412	610	25,331	1,407
	試合関連経費	254	132	358	449	288	174	427	179	331	281	248	309	319	321	290	176	239	116	4,891	272
	トップチーム運営経費	176	190	302	412	387	225	337	235	442	282	215	253	488	267	538	264	254	75	5,342	297
	アカデミー運営経費	58	75	173	101	59	38	245	73	315	122	136	162	208	102	0	107	132	20	2,126	118
	女子チーム運営経費	0	26	0	65	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	125	7
	販売費および一般管理費	485	769	1,517	2,265	827	1,043	1,039	1,090	1,528	791	1,444	1,013	1,263	955	749	660	912	541	18,891	1,050
	営業利益	▲121	32	▲78	150	▲4	24	243	68	▲500	▲45	124	217	▲295	▲67	72	▲114	227	93	26	1
	営業外収益	104	25	16	7	12	13	40	2	12	134	37	24	27	35	1	18	11	41	559	31
	営業外費用	19	1	5	5	7	33	4	1	10	10	4	5	18	▲36	4	14	13	9	126	7
	経常利益	▲36	56	▲67	152	1	4	279	69	▲499	79	157	236	▲286	4	69	▲110	225	125	458	25
特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特別損失	0	4	0	0	0	0	0	0	130	0	0	0	0	0	6	185	0	35	360	20	
税引前当期利益	▲36	52	▲67	152	1	4	279	69	▲628	79	157	236	▲286	4	63	▲295	225	90	99	6	
法人税および住民税	2	20	1	1	1	▲6	134	36	0	35	27	66	▲29	0	0	1	2	0	291	16	
当期純利益(損失)	▲38	32	▲68	151	0	10	145	33	▲629	44	129	170	▲257	4	63	▲296	223	90	▲194	▲11	
2. 貸借対照表																					
資産	流動資産	678	858	737	303	414	214	1,509	890	480	605	411	885	626	493	440	536	922	379		
	固定資産	72	493	1,348	826	1,091	2,242	361	98	11	365	687	455	343	479	282	252	281	62		
資産の部	合計	751	1,351	2,085	1,129	1,505	2,456	1,870	988	491	970	1,098	1,340	969	972	722	788	1,203	441		
負債	流動負債	340	447	476	528	853	1,453	541	334	2,017	482	344	580	719	692	471	350	461	312		
	固定負債	448	231	97	74	641	9	0	40	151	63	217	68	157	48	72	1,690	247	37		
負債の部	合計	788	678	573	602	1,494	1,462	541	374	2,168	545	561	648	876	740	543	2,040	708	349		
資本	資本金	876	454	1,570	160	100	100	1,064	349	31	712	550	679	400	10	315	98	220	605		
	資本準備金等	0	0	147	0	240	932	0	31	0	0	0	0	0	0	0	561	52	454		
	利益剰余金	▲913	219	▲205	367	▲329	▲38	265	234	▲1,708	▲287	▲13	13	▲307	222	▲136	▲1,911	223	▲967		
	資本(純資産)の部	合計	▲37	673	1,512	527	11	994	1,329	614	▲1,677	425	537	692	93	232	179	▲1,252	495	92	

クラブ名		J2																						J2 総合計		J2 平均	
		山形	水戸	栃木	群馬	千葉	東京V	町田	横浜FC	湘南	甲府	松本	富山	岐阜	京都	鳥取	岡山	徳島	愛媛	福岡	北九州	熊本	大分				
決算月		2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2012年 12月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2012年 12月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期	2013年 1月期					
1. 損益総括																											
損益総括	営業収益	1,047	483	791	496	2,408	1,470	493	1,054	869	1,179	893	599	528	2,039	576	878	1,050	546	854	682	678	986	20,599	936		
	広告料収入	253	169	418	226	1,617	548	202	576	330	554	368	354	193	1,354	186	415	709	199	301	252	252	452	9,928	451		
	入場料収入	223	82	131	80	341	170	69	208	203	291	188	58	73	250	87	141	84	55	170	98	95	285	3,382	154		
	Jリーグ配分金	95	90	96	87	110	87	95	102	89	103	118	84	100	89	112	93	89	90	95	86	83	83	2,076	94		
	アカデミー関連収入	57	35	29	6	53	134	24	40	0	26	0	33	32	129	39	48	49	63	172	44	31	53	1,097	50		
	その他収入	419	107	118	97	287	531	103	128	247	205	219	70	130	217	152	181	121	139	116	202	217	113	4,119	187		
	営業費用	982	479	907	536	2,232	1,463	476	1,048	873	1,148	827	639	568	1,521	595	848	976	546	1,015	675	696	883	19,933	906		
	チーム人件費	459	205	338	184	1,038	369	152	490	366	476	284	264	212	591	212	389	489	238	411	259	254	298	7,978	363		
	試合関連経費	77	30	92	54	147	284	84	85	67	66	83	55	46	134	43	67	52	21	86	44	75	67	1,759	80		
	トップチーム運営経費	109	68	143	91	230	290	63	110	75	170	120	110	75	166	67	75	132	83	155	102	103	123	2,660	121		
	アカデミー運営経費	68	11	30	24	53	59	0	61	0	18	0	15	18	126	31	20	18	10	63	18	24	71	738	34		
	女子チーム運営経費	0	0	0	0	69	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	103	5		
	販売費および一般管理費	269	165	303	183	696	432	177	302	365	418	339	195	217	504	242	297	285	192	300	252	240	321	6,694	304		
	営業利益	65	4	▲116	▲40	176	7	17	6	▲4	31	66	▲40	▲40	518	▲19	30	74	0	▲161	7	▲18	103	666	30		
	営業外収益	0	1	2	12	4	0	1	0	12	15	4	3	0	13	18	0	19	2	14	0	1	13	134	6		
営業外費用	0	1	1	3	10	2	2	4	4	9	0	0	9	166	4	4	1	0	10	2	1	9	242	11			
経常利益	65	4	▲115	▲31	170	5	16	2	4	37	70	▲37	▲49	365	▲5	26	91	2	▲157	5	▲18	107	557	25			
特別利益	0	25	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	224	250	11			
特別損失	0	1	0	2	32	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	1	0	0	3	4	0	51	2			
税引前当期利益	65	28	▲115	▲32	138	5	16	2	4	37	70	▲37	▲49	357	▲5	26	90	2	▲157	2	▲22	331	756	34			
法人税および住民税	0	0	1	1	0	0	1	0	0	22	31	0	0	60	1	0	39	0	1	0	1	1	159	7			
当期純利益(損失)	65	28	▲116	▲33	138	5	15	2	4	15	39	▲37	▲49	297	▲7	26	52	2	▲158	2	▲23	330	597	27			
2. 貸借対照表																											
資産	流動資産	116	142	119	100	364	361	134	162	206	406	201	202	77	1,199	53	326	501	145	141	105	112	146				
	固定資産	15	26	40	10	997	32	36	142	96	200	20	3	3	115	467	25	147	56	274	38	19	59				
	資産の部 合計	131	168	159	110	1,361	393	170	304	302	606	221	205	80	1,314	520	351	648	201	415	143	131	205				
負債	流動負債	117	87	211	197	513	299	78	148	205	285	55	171	246	765	294	256	117	16	283	124	196	473				
	固定負債	0	25	4	0	406	62	74	127	65	29	1	2	26	227	197	3	23	0	72	49	6	319				
	負債の部 合計	117	112	215	197	919	361	152	275	270	314	56	173	272	992	491	259	140	16	355	173	202	792				
資本	資本金	—	80	285	208	490	252	142	344	630	367	128	97	142	3,605	149	98	409	209	126	147	273	469				
	資本準備金等	—	103	85	53	390	213	95	115	261	0	0	28	139	0	84	36	0	0	196	0	0	68				
	利益剰余金	—	▲127	▲426	▲348	▲438	▲433	▲219	▲430	▲859	▲75	37	▲92	▲473	▲3,283	▲204	▲42	99	▲24	▲262	▲177	▲344	▲1,124				
資本(純資産)の部 合計		14	56	▲56	▲87	442	32	18	29	32	292	165	32	▲192	322	29	92	508	185	60	▲30	▲71	▲587				

2014シーズンのJリーグディビジョン3(J3)

参加チームは「12」、「特別参加枠」(仮称)を検討

Jリーグは7月16日、JFAハウスでJ3進捗説明会を実施した。J3構想進捗についての中間報告という形で、同日のJリーグ理事会で決議された2014シーズンのJ3の参加チーム数、大会方式、および「特別参加枠」(仮称)の設定の検討を発表。Jリーグの中野幸夫専務理事、大河正明 管理統括本部長が説明を行い、メディアの質問に答えた。

参加クラブの決定は11月

J3へ参加するチーム数は「12」となり、参加クラブは11月のJリーグ理事会で最終決定する。J3参加への最初のステップとして、まずはJリーグ準加盟申請を行い、同準加盟クラブとして承認されることが必要となる。Jリーグは6月28日までに、JFLの6クラブ、地域リーグの7クラブという計13クラブ(下表)から申請書類を受け取った。書類審査により申請が受理されたクラブは、現地ヒアリングなどの審査を経て、申請日より3カ月以内にJリーグ理事会で準加盟の可否が決定される。実務的には8月20日、または9月16日開催の理事会となる。

J3参加に向けた審査を受けることができるのは、上記13クラブに、すでにJリーグ準加盟クラブとして承認された6クラブ(下表)を加え

た計19クラブ。今後、J3ライセンス、J3スタジアム要件の審査に合格することが必要で、最終的にJ3入会審査を受けて、Jリーグ理事会の承認を得なければならない。また、競技成績も入会可否の判断基準となる場合がある。

リーグ戦の方式は、総当たりの3回戦制(全33節、総試合数198)となった。「(参加が)12クラブの場合は当初、4回戦制も考えた」(大河本部長)が、悪天候時の予備日の確保、試合の質向上のために試合間隔を空ける夏場のデーゲーム対応などを踏まえて、日程編成に余裕を持たせるため。また、試合間隔を十分に取ることで、クラブの基盤整備の時間をつくるという側面もある。

「特別参加枠」は詳細な検討を継続

J3に「特別参加枠」(仮称)として1チームを参加させることも検討される。参加の具体的

意義・効果の他、チームの構成、予算、人員といったチーム概要などについて、Jクラブ、日本サッカー協会などと詳細な検討を行い、同枠を設けるか否かを含めて11月のJリーグ理事会で最終的に決定する。同枠の存在が11月に突然、明らかになった場合、「J3を目指すクラブにとって違和感は否めない」(大河本部長)ということから、今回の発表となった。

特別参加枠チームの具体像について、中野専務理事は「これから詰めていかなければならない」としながらも、「Jリーグの現状を見て、ユース年代のいい選手がどれだけ試合に出場しているか。そういった選手を、観客の前で、本当に戦う環境の中で試合をさせることによって、能力を高めていきたい」と、若手選手のさらなる育成を念頭に置いたチーム編成を想定していることを示唆した。

なお、2014シーズンのJFL参加チーム数はJFL理事会で決定。J3クラブに登録可能な外国籍選手数、同シーズン終了後のJ2とJ3の入れ替えチーム数およびその方法、クラブ間提携の取り扱いなどについては、引き続きJFA、JFLと連携して検討していく。

■Jリーグ準加盟を申請した13クラブ

クラブ名	福島ユナイテッドFC	栃木ウーヴァFC	Y.S.C.C. (横浜スポーツ&カルチャークラブ)	藤枝MYFC	MIOびわこ滋賀	FC琉球
リーグ	JFL	JFL	JFL	JFL	JFL	JFL
法人名	(株)AC福島ユナイテッド	NPO法人 栃木アミスタスポーツクラブ	NPO法人 横浜スポーツ &カルチャークラブ	(株)藤枝MYFC	(株)Mi-Oスポーツ	(株)琉球フットボールクラブ
ホーム タウン	福島県福島市	栃木県栃木市	神奈川県横浜市	静岡県藤枝市および 周辺3市2町	滋賀県草津市・東近江市	那覇市、沖縄市を 中心とする全県
スタジアム (予定)	とうほう・みんなのスタジアム (県営あづま陸上競技場)	栃木市総合運動公園 陸上競技場	三ツ沢公園陸上競技場 ニッパツ三ツ沢球技場	藤枝市総合運動公園 サッカー場	東近江市布引運動公園 陸上競技場	沖縄市コザ運動公園 陸上競技場

クラブ名	ヴァンラーレ八戸	グルージャ盛岡	tonan前橋	アスルクアラ沼津	FC鈴鹿ランポーレ	奈良クラブ	レノファ山口
リーグ	東北1部	東北1部	関東1部	東海1部	東海1部	関西1部	中国
法人名	NPO法人 クローバーズ・ネット	(株)いわてアスリートクラブ	(株)図南クラブ	アスルクアラ沼津(株)	NPO法人 三重すずか スポーツクラブ	NPO法人 奈良クラブ	NPO法人 山口アスレチック・クラブ
ホーム タウン	青森県八戸市	岩手県盛岡市	群馬県前橋市	静岡県沼津市	三重県鈴鹿市	奈良市を中心とする全県	山口市を中心とする全県
スタジアム (予定)	八戸市東運動公園 陸上競技場	盛岡南運動公園球技場	前橋総合運動公園 陸上競技場 ほか	静岡県愛鷹運動公園 陸上競技場	三重県鈴鹿スポーツ ガーデン サッカー場	奈良市鴻ノ池陸上競技場	山口県維新百年記念公園 陸上競技場

■現在のJリーグ準加盟クラブ(6クラブ)

クラブ名	ブラウブリッツ秋田	FC町田ゼルビア	SC相模原	ツエーゲン金沢	AC長野パルセイロ	カマタマーレ讃岐
リーグ	JFL	JFL	JFL	JFL	JFL	JFL
法人名	秋田フットボールクラブ(株)	(株)ゼルビア	(株)スポーツクラブ相模原	(株)ツエーゲン	(株)長野パルセイロ・ アスレチッククラブ	(株)カマタマーレ讃岐
ホーム タウン	秋田市、にかほ市、由利本荘市 を中心とする全県	東京都町田市	神奈川県相模原市	金沢市と2市2町を 中心とする全県	長野市をはじめとする 北信15市町村	高松市、丸亀市を 中心とする全県
スタジアム (予定)	秋田市八橋球技場 秋田市八橋陸上競技場	町田市立陸上競技場	相模原市麻溝公園競技場	石川県西部緑地公園 陸上競技場	南長野運動公園 総合球技場	香川県丸亀競技場

